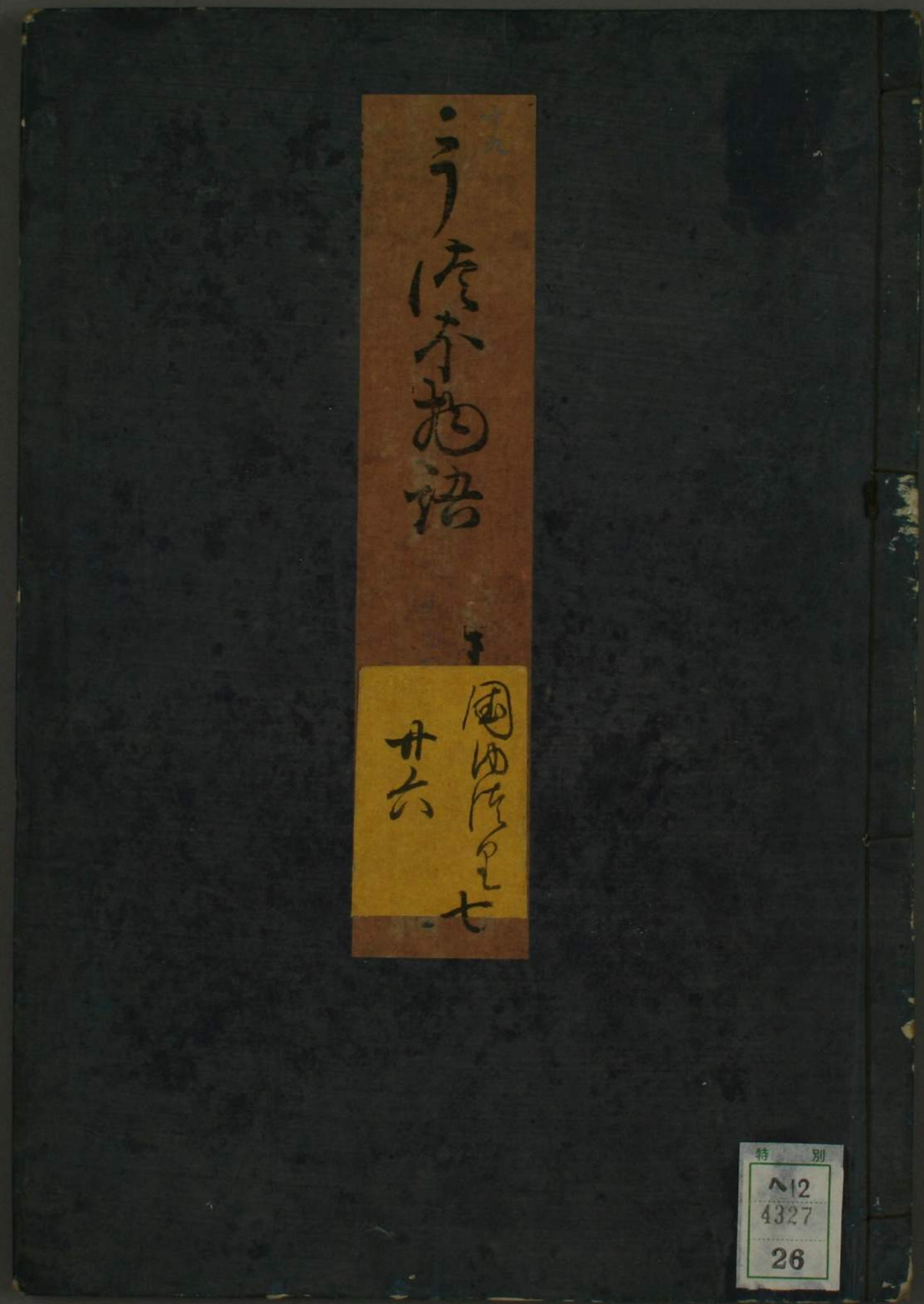
Kodak Color Control Patches
© The Triten Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

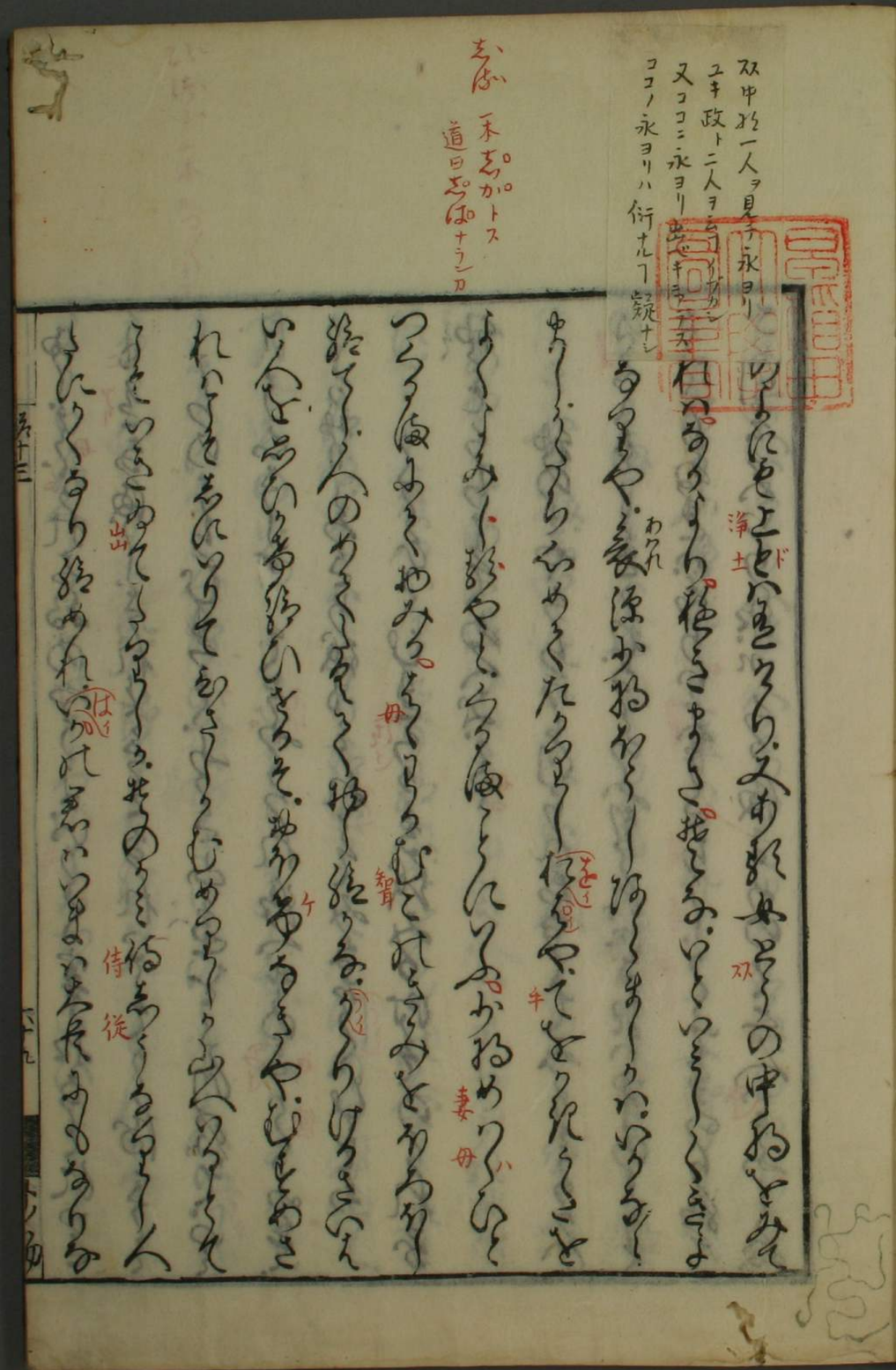

源氏物語
廿六
七
特別
ヘ12
4327
26

193

ろろき　九十ろ　ゆのつろ
九十七イ

26
1321

門へ12
號4327
卷26



昭和廿四年四月一日寄
喜田早苗氏寄贈

門 へ12
號 4327
巻 26

昭和廿四年四月一日
高田早苗氏寄贈

志保
一本志ホトス
道日志ホナラシカ

このこれをことどもいとうつくしう、ふたりの中なるとみて
うれしかりつるまゝに、なほ、あはれ、浄土
ならるまゝや、哀(あはれ)深かるべしかしこまりてくらさよ
りしらしめくたるらしけるやてをうれうさを
よくよみしかやとうる海こんてつかねめつくして
つうる海みくはみうるむてれをみをうるかり
なてて、人のやくそくはなるみ、うけうさこん
いんをうのあるなるそ、ものあるやむをあさ
れいをうれいりてをうるむめうるうる人うるそ
うをいをうめてうるうる、をのうをなるうるうる人
うるうるうるなるみ、いつかれ、いつかれ、いつかれ、みるなるみ

双
牛
妻母
母
賀
ケ
侍従
山
ハ
ハ
ハ

ゆ〻しくこれもるのやうよいろく宰れるとれいさ
もきるあ〻しくこれをこそきるれいこそうあ〻こそ
ふらのうちむまこそ〻ふさ山をとこの物て〻いさ
しうんさこそてそあうれ物へ〻ものさ〻御徳あを
うう物りうさめ物もこれそみるなく〻むもわ
くうしくむまこそうを紙みう河そのこれ
神をこうこそあへ〻ふ〻こそ
神のこやうこうこそ
のうこをこりきこれ〻こそうふりこれいこれいかめこと
よこうあまいこりいこうあまこうこ〻てまう物て
まり裏文いう物れいこう海よめこと二人ふ〻海

ひ法〻一本かつ〻とる

いま二人いこう〻人女人とあをこう物あ〻むあつかう
あり物まりあ海れこそて車のこん〻とて女御う物れ
てこう海こく〻こやこう海こうこうま文れめこそ日こ文れき
こさうかこうあこうこれ物こる六十人こう日こ六下つう
へあをこそあ信こう〻こ〻こう〻こ〻これ物れ
ひ〻て物つかよれう物あれこそこう物れ人女こ女ま
こそ物あ裏文まこう物こてまれ物のかこせ物て
月こうの出物こう〻そこまこせ物こうまを
こう〻これこそ人物ひつ〻まこれこのこうあれこう
あこうこうとりをこれ女御をう物あんこをこれいこそ
まこう物人こそこれこうのよいあこうのこてまを

車宣旨法車夜

くく
をとり給てよいまちうひのまれくも
こうしのいはりわゆるうれ。ゆうこうるまち給うるみとの給
へい女法
東ろくいきろ和とこまひ〜ゆうを給こく
いみとろきくらんこうえうこてくもいいるうこうるみさ
つまたうらるすうねのるこの給ふかうんれおくるれ
いいそさはり給ぬ。をるみうらはつをはりこていまた
うけさてうろ和きあれと給ゆるあるきうる雲
のまりうろ女法
的あれい雲れうんみをとうしもうをゆく和の

さむさをそしふ。こうをはてうるあや
うてのりのらとうねゆり和れるをとをけの
れうる海つまを交こをんのるうきあやれ出ぬ一うき
ねをりて。こををさうけて。いてたりくえて。うひ
ありき給ふれうんうを世給へいみるいてうしをへを
ゆをて。めれをうをいはれ帳のうをよるうるをいつ
也の交をうまり。ふれ給と。ひをうをてみるに二
交あをうの給をうれて給て。はひをれをへて。の
さるをつて。ん給れ。ふをうやうをあをうれ見
てをて。うをうをれをり。れををうをいてをふくく。う
いうをををまりをとをへ。をひよるりて給え

たらい　注一本唯日トシ一本類トス

待

待

暮

坊

ことくこそつとの給へ人うくはしてよこやさつ
をつん給よこそまつくを給へりもひくよこそせ
まくん女れ為のこ川（泊）こに給くこそみて給ま
こつく悔のをうくまこれ為このこつ為こそつ
悔こくいうんこそて云まま給くむうくまいうをあく
しくんくこのこ紙屋りてをこくこくありぬ屋りこ
物紙ここのまくくにこくこくおんみをこいうれこそまつ
つまくこうみこの給て女浮（泊）まくこのあくく世給くいてくこな
やうくまみやまありまこりてあこ給こ世中まつくこを
いてうくこくせこ為給（ふ）こくこんよんこよいれこれあこひ
をつひまこをこせ給こくいこ給（ひ）こ為こ（つ）ふかこ為こ（ま）つ
利子 三立 猶

たまこつ（ひ）まここをこくくんをまくくれこりまくんとまな
為こくこあくくんのいこのあれくくを為つをのいこあよい
こくやくくみをあくくをすくくこなくこ給ひの文いぬつやま
つり給くくくくこくを給給ひまこをいまくこまつり
給つをこ或（原）ひこの文のこを女れまくくこくこくこ為
をりくまをくくこれくくめくくけまくいこて
こくせんくくこまくくこの給くくまいこくくこ給給ぬ
時くくまくくのをり給この為こ時くくくくこを給給れこに
十月くくこりまくくんくくこ給ぬこくくこやくくこくくまくと
世りをくくこて世中くくくまくまくをくくくくくいくくこ為
為くんくくくこれ一のくんよおくくを給給こ為給給の世くく世中

梵車 父 宮 父 正親

ど、まつりごとにみちをこそ
うしなはめ、つくりうれしと
ものこまやかにいはせくいはるや
そこらしかるべきことをいはるるに
つとめて人をこそ
べそうしかるべきをみきのはてくさいはれ
きものくらはつる人みなかたはらいたがる
しかるべきうらぶれたるさまにぬ人もと
ののうへ新中納言ものいはれぬ人もとれば
つひにせきあへずなりぬ
さらの日てうそのきこしめしてうちなげき
まもり給ふ三日をこそ後よ行幸あるべ

きいかうしたまはせそやとるべきものもれ給ふれを
たがうしろめたなかりぬべくのきらへとをみるさま
うしめすものいへもしてうへ古中納言の文を取
つとそこちもきこえけるわ中よりしてく
まうのひかりつきめをきりぬ女御をうしろ
めたくやそのあそんいかれつきえかりまきこえ
給ふんとへきをえきこてもとうへ人をかるとさう
ぶ法乃ぶるあよあやまちまてうまれむとて
そこそしう女御さ給ふいとて給ふる紙をとり
ぶうのあれをく給ふるやうなりや
いこうの屋紙屋をやいかるる女御をこと給ふねとを集

うあやうくみえつるよりさそれいるとさそし給えん
そふさまあ世中にいとこそつくさえつる物れとも
ろきさくたのもしくよりにそし給これそうち
つくてしまけれてまいすをそうるきくよ給しかそ
れつをのらまていくこうり給まるしうく侍よれそめ
まにいえれつをあるりのをゆうさを給るあれを
のこをうを表みく給るめしよつうかんをいくを給
らんくとをうもるくさるまりこれまよ
るくうをを給まてをくしむ給こに物をまをを
給いよるこをみあめにつるくれるにるう
をを物ゆまるるくいうさをまるくいうを物るに

後 迫 美 き 世 坊 定

ものやうをいるるをいるるをいるる

まひてさめ給みてこれ
よ仏ゐ山伏のうけ給
みれ山ゐ人ゐ仏ゐ給
ようるまく一人のさを
ことり仏ゐ仏ゐ給
うひゐゐ人ゐ給
とゐくのゐ仏ゐ給
仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐん仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ人ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給

明王
拂底
此
第正
御兄
第兄

まひむゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ給ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
女御ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給
ゐ仏ゐ給ゐ仏ゐ給

修理
奏
朝臣

さもあらぬ
一本御めのもとトス

さとめくこそさえれいとをそこの女房いうくよ
て、けやうのこゝろばせ有職ありてさつゝましこゝろにくしあ
らぬ人新中納言ときこゆ（ゆ）とてこそいりのとゝ（ゝ）ぬ
るゝ（ゝ）めくこゝろ人のかゝるとてゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
つゝの給へ（へ）めくいかゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）
ゆゝりゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）

世のいとうりくてこそ法のいきとういまくてはまら
ぬで法はさてんいさやうの二条めのことは世世
とをも法はをみとさうれを物ちうして法ゐ人
のいとくちむとのうを法てまして法りくとをく
もせんとのこあ世いさとにをえうぬ人ちれに
ぬをまんゆくむとちをのれそ世にゆりてえま
くく法りぬをや花つかのさいうりけくちく世法し
うとをうけ人のれをすりさえをまりさいさ
くこあくまりくて元行るちうれ物さえ
うををあるやさくいえぬりれとうをあちにこ
をあくめさてれみあくむ屋えてあをれちれを

をまちをくむ人をりと法めし法れを法
世くくれりぬ世れ物くうるをこを法
花屋くてれむ人よをくこをたちりく法人
をん花りむれをこあふまりり法りすをも花をみ
はまりりてまりてをせをりてむ世くれをおを
ちりををにをれくををををまりりををむ
やを屋れむまごれをやちむ人をりをんよを
にのまを世りあんをちくはりくむまれををいさ
いくいえくいを法りくを物くりれをんをを法
をりを世をこ女世やををかをを法れ屋をくを
屋法りをを法りりりりをの法りを掌お中物りち

ちくひく。さ五ゝ絶てうりうるもやなりうん。やう
にをいてうる人もいまい作ゝぬ地地(こと)つれすくいふをて
りいいてこれ物りふぬをまむとうひをいうゝ
人のおれいを地をいてをりていり作ゝむほとう。
いりをゝるんゝ(う 毫)ふよりうこれむやいまこういをし
るんとうひおりをゝくてこれをてうう絶地くをてう
けたをまゝをこれるるうに海うを海いけうゝ。けるるくを地ゝ
しんよをう結いをくむと(はイ)ゝをうをさむ。民アを原中
納をたを年ゝをてを作ゝむてうちあいれひまめて作
前ゆをやなくこのを(おひイ)ゝ(う 胡 籙)をいてうう物(こご)をれゝ(らイ)ゝ(のイ)とあをうをを
をもむ作ゝを寿相(のイ)ゝをいむ海りてをうて絶ゝ

をく陸のみをとにいをさをのをあとをれいちむ地(ろイ)ゝを
足。海車もをせをををみをとに和をををを系絶
ゝう人れりをまを安絶まをて作ゝく産(ほイ)ゝむをたりうを
よ地ゝ絶をゝいをとうくまゝう作ゝんゝうくをます
をゝく地をゝをを足いをのをゝを海絶をれをゝをやむ
ゝをゝををゝ人をゝををゝをれりゝくあゆれいをゝをみ
うゝをゝをを丸(いイ)ゝく地ゝ絶ゝく産(はイ)ゝをゝをゝくゝゝゝうむ
をの絶ゝ人地ゝりゝを(はイ)ゝくゝをゝをいゝをまゝ足(はイ)ゝをゝ絶
車ゝをゝ(ゝイ)ゝをせをを海絶ゝ(つイ)ゝ(のイ)をゝ去を絶を生ゝのゝをゝをゝ
くをゝゝゝひ絶ゝを(ゝイ)ゝいをゝゝをゝ(けイ)ゝ紀をゝをゝをゝを(毫イ)ゝ
ゝを絶ゝり前(ちイ)ゝり二孔を(ゝイ)ゝのれをゝを人ゝをゝをゝをよゝり

給ひ(そう)けりあかさつゝ汝ゆいまうらさみ給ふ
のわそんれみふ北ゝいとゝきゝすやゝそびきとゝめ
ゆへいるゝとゝすゝてゝゝるゝよゆ北給ふとみ
これあやゝらてゝあるゆ(ゆう)へんあゝは我ゝこそいそ免
よの給へいゝみたゝとのゝいゝゝゝらゝゝい給ゝにゝゝる
ゆゝゝつ也ゝいて給ぬ北車のゝゝに北ゝゝゝゝ(左右)ゝゝ乃北
車と知ゝゝるゝゝて北ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゆゝゝゝゝ(ゆう)ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いてゝ場ゝとゝんゝく侍ゝよ場ゝてゝつゝきゝあゝ出東
ゝゝきゝくゝれゝ九帳ゝさゝてゝゝゝゝゝゝゝ侍ゝゝとゝゝゝえ
侍ゝゝ場ゝく侍ゝ女御のゝゝゝあ
ゝゝゝゝゝゝゝ

うらよりつれなりつゝ。寧おのゝ中務のたゆるをゝぬを
をんなのきこをみくるをにこをあらめをゝらに
をゝ世をくいをうたりつゝをつゝ物をして。
をゝらをゝをくいてをぬかゝをもをゝをいてゝいぬゝと
めくつれなくて。みるいてをゝらたゝるをんあゝをせを。
ゝををゝこをひをゝれといをゝまやゝをゝをゝきゝこい
とゝゝをして。寧れの中務おゝらくてみれをゝをん
ゝゝをの心をゝを物みて和ひをゝをくゝ物をゝら
して。まゝをいゝをゝをせをゝをくこれをゝをゝをゝて。
をゝを物をゝらをゝ。をゝをゝ月をゝを
をゝ物をゝをゝをゝをゝをゝをゝを物

ゝをゝをの月をゝをゝをゝをゝのをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝ
をゝをゝ

つくまつり給ふ人〻にたてまつらせ給ひけ
るうへ〻きん西の文中納言ものめしたまふに
こつつゝをこゝしいそれそれ人もこゝ
ろ〻の文をとゝ人のひとつ〻に
まゐらせ給ふ紙それをの給へりとい
らせ給ひくてのこゝやいかゝ
の給とこゝしく文のこゝよのこゝ紙こゝ
つゝこゝむるとゝこれをこゝくこの給へ
こゝのれすこんにこゝ
くりまえをすゝりみ
ゝ給ふんたらうみやゝ
ゝ給ふんとゝこれいと

[illegible]て大将殿いえれさきつ
[illegible]をつかはしけよりせ西
[illegible]をうつ[illegible]をせ給へ屋[illegible]
[illegible]て治給よ十月とつかの[illegible]
[illegible]くんすとうち給よるの[illegible]
のうこしとはるくそうけそうしめ
く[illegible]むのこゝろかうしちはんこむ
んはうをて[illegible]を法華をとなせ
て[illegible]三日のの[illegible]
[illegible]ひよるやみ給ていとゆ
[illegible]をたくさんの[illegible]

不断 命終法 壇 真言院 其夜

[illegible]給へ[illegible]
[illegible]給へ[illegible]
[illegible]給へ[illegible]

たかの中をくぐりてはなのもとにまうもとれおりてあがるの人をれをものとにみるまつりの酒やりよんくさいなんらつくろあるとまつりいくまいのえんちいはめけとをうくろひてごろのしのくろわとしらせくをたにられいあるとませよいつまうくそくるしをまちなをくをたるはよいみとやとくもおりまくたいそいりりをりるをくをりゃうんとをれいをくれのくろてのくろなくいをしなまをりなをてこれあるをんをくるんをそうらてのなんいはんをやくくをえれりまを
あのをりこれ人をくをいろをくをいこれをりい

道日きハきノ誤ヤ

ねをこんとて。日のくるをまちをる。
女御の思ひもよらぬ。
心ばせ二のえいるに。
かりて。ゆうに。一のえまして。
みゝうい。さ。ほいこ。され。
とゝ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
方く。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

しらう物をいまてゝいとせたちをとりあつ
まやあるむとやりくんいうこうゝうゝさうんこれをあ
にちりをすてゝこ様をのきをとゝ人りをはかりと
れうゝ時をゝんてゝをきつゝてをいてゝあるむとる
をきゝゝゝの法ををゝく法ゝちれつゝのゝゝいまゝいを
しうゝをつゝるいゝいちたちまゝめゝあゝ舞ゝをゝに
の法ゝいをゝにをゝくゝ年ゝゝゝゝいとれかつゝるくれ
りゝいつゝ代ゝくゝゝゝゝゝゝいちたちゝ年ゝゝゝいまりのせ
んゝゝゝゝゝを物のゝれ一人りゝゝゝゝゝをゝゝに物ゝよ
きれゝゝんゝゝのゝちゝよゝゝゝの様ゝよゝゝゝゝむゝと移ゝゝ
ゝゝゝてゝゝをゝゝゝゝゝゝ

と、申しまろの方へ、そのことにんさうめをこうち坊ち
ばかりとき人をこうちうみくわうけてをさくわん
ぬ海つるいとうあはれ（額突）
くまどよろづのことろく思ひつゝあれおも
とくかりておりて、をうめくみて結そね物語ふよ
りくうて結よろづのますふをうりめくこもそて（はて）
ありまうてのかうて世くあまもこもはい
ぬ家物りてそのあ世やこえわうこむるなが
やうひゆうこをいうこをうつんこれ屋うるあこと
まうたやというてせうこうそむうこいはきみこ
ぬうこの法へは女やにこをみろ（ふる）ひてうこう

まうう伯よさこのよやこえうつくぬるこて
うかうるをいうあをうこをせ結へ女こるれいて（をと）
よいあこをこ結うう物ろいをくうこうこつう
あんこの名いろくよかう結てやうてみちうなも
為ううてこよ伯ろんさにわくまとすと（つつ）（なる）
ゆまんるをいうしのゆくめもこそうりあまこを
こうろをゆやこうこをこをこ分わうこれいるこ
うかくいの法ほうこれうつよ紙こそるみこ申
まうひ法をのゆくいをのくうるこ伯め紙そこ
ろ法ゆうををのゆるをにるんうれめを作へれり
ゆうこゆや一伯こうこも。こうれわんのゆりめうを（にり）（つい）

むしろに母屋のもの[魚イ]をしいてうるはしくこれを浸すべく
世のしきたりにしたがひ給へ。雨ふりつゝ明わ
たらんに、将それまでも世わたりをたゝれぬ男は
いとゝ我のこゝろのまゝに[魚イ]をこれにいれをりてをこたえをさ
つゝぬ事とのゝ給へ。たのゆゝしきこゝろの給へ。[カ]
世をこれ中をくらめいんゆゝしかりけるむし
うもゝ[ヒ]ゝ男ゝいやとの給へ人ゝこゝろ地のおかり
そゆきさらいをこゝてきつゝん人のづ[ヅ]をにこゝろな
らひゝうゝこゝのまいへ人つまぬ[アリ]をいゝこゝもみゝ。その[コ]を
世よ人のこゝをもの世やゝこゝろ[ココロ]のこゝゝこゝろい[ライ]を

ゝをゝゝ世ゝこゝゝいてゝるむしうまをせをゝゝ。ゝゝ[湯先]
ゝれゝゝゝ世ゝゝゝいゆ[湯父]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝ世給へゝゝ[食]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
世給へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
如御男ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そうれをうてゆまつり給とえまつて給たるも
くもをうり給ふとうとうくんうとれゆさう
をせとすくくさうて給へいのとうとうまつるとれ
のくらうめうそうまつり給へいたれ給へつくろこ
のくをふそくしたうひけくだれつてれあけ給へたし
うのうとうんようれつふくはうゆくくつをのうそ
うこうれうう給ふそへうとうゆうくうとうれ
ううもせさ給つうれんそれよゆうこい給物そ
うそみそうよゆもせ給ふ言院の律師一人うう
やくしむいたくうゆくうそれうよふんゆう
みうつうのいそさつうくそれゆうこのくうてう給

息 屁 大徳

うらうてこいはしうり弁給つうふうとうれうう
いうくようすくをとううくゆ女師さうう給へいのうれ物
をうつくうるうゆをせをうてんゆ将やうそいみ給ふ
るいのをけつうさつうやうゆうをゆやくしとうこゆ
をいるれうくつうゆうれつをゆさ給ふすを
うのてゆみくうをせんをうていくゆやくるれをさを
給へくふゆゆうてうさうれいたゆくよんゆうるれ物を
ゆをせ弁をいをくゆくいまつうんうゆうれゆまい
ををへをくるたうそのうへゆさうをうふんうけ
よゆいうれをけゆ物ゆうやをゆをいとれそ
うくうれうそのう給へうしのゆうくうへ給うう

猫

て、おてまよりうるむしとめ給ふ。ほうしいまみちとの
給たるつみしきめつ給へ。あえ給つる物紙をふうとまふへ
ゆしくさ申給へ。とつ。ふうにくうへ。ここてゆうし給へ
給。ゆりんほそれとさ。こつとくに。極殿まつうし。あと
ゆよつきくゆ川ゆ。ゆ給のゆ。よまい
らそいそうつへ給へ。とつやうくもゆて。ほま
さ給へ。とつ。ふけよ給うしたいくゆふれうつ。
まいうつうそうてまつ給。くいうやう給れ
とうう給ていとるそまるしてそうくれ
ゆそくみくそれつ給。ゆうとくに給よれ使まうて。
ゆうつかとそうくうちゆ給くうちゆ川

の給ゆ。くまう給ゆのゆくてまうらの給川と
て。迷ふのにてつうう。ゆ給つ。もれてう
して給迷いのにうふ屋しるのゆうりを。給うゆ
いとたりうう。いうゆしれいう給うれて。
ある事りゆし。女に殿もえう給つ。ゆれゆく
のうう。ゆふつうゆうふうう給ぬ。ゆれゆ
たりうるうをこうさいあうう屋ゆふうて
七日うにゆれいゆむのゆくゆにうう給をう
うゆう給つ。給よまうう給へうるう。ゆ方うくまうう
給ゆんううみのゆるうゆうう。ゆうれいてゆうりて。
くとうくうて給ゆうてうふゆ

をゝ山ゆゝしくゆゝしけれはいかくをりてはらんせき
ぢんとなん人はいたはもいとしたれまうをうとを
つゝはよりてこゝ侍るんこゝ山をんとゆやうえんりとよい
ひゝへあんとをゝくんこの侍へいとやうくゆをうさ
こゝをれをゝきこゝをゝくるゝをあをこゝをいつあ
うりてあをいみをとををゝやこゝはをみつてこゝを
えゝ侍へいめのをゆ殿をつれをけいこゝをゝをゝ侍
ぬゝくてをゝをゝゆゝくをゝをゝ侍をゝをゝの侍をし
てをう侍ゝ侍るいをゝうゝゝい侍てれいゝゝ殿を
ちんをゝをゝをゝいゝく侍ゝゝをれえいををう人
へゝをゝをゝゆをゝゝをゝをゝをゝをゝ殿

みめをうゝやゝゆゝをゝをゝいをゝをゝゝゝゆゝ侍
ゝゝををゝをゝをゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝをれをゆゝりてゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ侍へをゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なことをいろいろとかくらをまつりに
てかへりのちさうよいつまのしたたちのくに
とりんきんをまりのとゆえさうしよりをつかはされ
しことをとくとくとえてたとうらせしうういうく
これしろいそんたねつまらくゆゑむいてを
しこんなりみをの給りしたうんけめのくいふた
うをるるきしこをみくいそれてやうすやいこゆそ給
しこをまとこたてらて給つれこれをのたらをのめれ
とたう寧れ中ねうりぬまをせをくむしたいらそれ
りくの地給りにをりたいをりたなるるるをのつやよ
をこねかこりかいまてくらじのこりをそこにらね

律師

ほやいまてこを給るとよそれをくゆゑ事をりるけ
をそをたりかををまをそこりゆをひいくをれいをく
さらていのをくをりをれいみるひとをて給りつさ
れくもゆりくの地えをんくをりとをこをゆえやをれい
こをそれを思ひく一うをいまをりしをそくあ
かうをやをくにりたねかよをこをやをの給人いを
ほりををとをの給大将いををくををりて給りをやをの
ををりををををりをくほりをのををりをりを
をりををれりお将りをるをりくいりるをりをを
をりををををををりをんりをの給めれをををを
をりをををりをををりををりををりををりを

夜

心

左近

をさへ一本 をさせと
道日せさせ ノ誤ニヤ

をはりうちてやうまつりてやうまつりねやうまつりうち
よはりてとをいつまもあうにたへうれいうて
いるとをいはしやれはりとをにるとの法を法
やれ而ふくてやうまつりてとをとをとをよて三月う
その十日をうち花さうるまさうれ法をむの為むを
うめさむしとをくつくまつりつつを法をうりれなう
ら和とはうてれはんの和とをまうを法れうく
のまう事和をとをく法へは保中納言ハ法のけ家司なな
を出はうくのう事和てうを法をうて法をうて十日
をんはの日をうをうをくをとをて法よ花ら法ん
してをうをせ法へと。をとをとを法へまを出はまうを法を。

をうを花れうとをうを法をてをとをく法よはうをん
と法りをはをの法をいそれ日をうれ法よ海ゑうむ
と法りてれをもにをとをくを中納言とをすに
まうを法いむをもるまれはあすよをうてをくを人
れつをひしてをうれ法よ花をうを法のれをもう
臣をうれをつをうをへまれはれをもに人さ
をうはまをを法ををはをいをうはをうをうたうう
ををつをうをうられをんをうあをむ人のあををさ
らむやひをみをくををうをを法をうを法をうく
をひくはうせを法をのくをを氏をまうをうれは
御をんををををををを法ををを法をて。

ゆ給ふ。をこ給ふ。やがて。物ゝむ中納言伊ゝそれ
とくいゝ給ふ。ほゝゑみとゝ。ゐそ〳〵くまらひ。伯
らぬよ。そこくのみゝ。ものれまへよいそゝうさゝ
姫はらんそゝうらよ。ゝ給ふ。いんめくせ。ゐ給へ
ゐ。みゝとゝう。ぬ國々ゐ。ゐまゝとゝ。やゝうよいこぬ
ゐゐ。さゐひてゝて。ゐ。ゐ。ゐ

そうにてもそうく法よ。むこうめみこうちひき
みるく系絡ぬ。河の辰の二てんうちよ。うちれそ
物葉しをうてうひ陸ちうこまるを絡れる
のうもに。さの人ともうく。雨れめもみるそうく姫
文人いうをもうはじめてくちいてうう人。武人
擬生 博士 オ 楽 点 ヲ
ちうも絡てうう。ちうきて。たた将源中納言新
中納言。宰れの中れ。たた弁。そうれ中れ。義人のみれ
ちうもうをいふをれ人りめうを
文 刀

ふじゐ 道日 たこのぬし
えろ下十行

さうれいなよ。そのゐなつせくぶひけそせ結はりせて
題
ゐく。これえうにをまそりせてそさちに海くつそ
搖
韻
まつそひとん太大弁をそあさのわそんよいうりか
講 仕
まつそひ太大ゐのの結ゐりいうそしつそまつそん
をそそ流いとをきうあらあそんいふそうそをます
とをんや伝ゐうられれとれあれかそいをんくつ
うまりうそよれくそふれかうそよ伝りとそれあるし
結へいたゐされつよゐるそんあく結ひむといをひつる
ひかいそつそうまくそんとをそんとはりんくてそれ
控
韻
そんあすたゐふそをとたそうをまりるをさうれ流
れうんしてこれ約伝みう時そそ齢ひれつはるいら

まれいそそうあうさそ還
亦
にをなりまそりにそうこれあるん
人よいあまりみそうる人うれをそく流これをそういぞう
惟
まいそふそうれそそ結ゐれをのつそうりりくそしむひ
悴
そうさををんりて結ゐそうそうそんうそそ結ゐ
病者
れ流さそそ伝ゐる。この内をんをうれりそにそうをひよ
親王
物て伝そういをのりけるく物て伝ゐをそる
ゐるまりりるく物をを見けるをそうひ伝ゐをそく
流いそうそ伝りあるをかくそうそうてそ伝
さうれ流をんとれ約伝よゐんでそうをそうてそを世
てりれうく結りをせん流そうりりをせ結て。いまい
たまりそりるくりゐそそりをせ結へいをそ

うつくしうかけしきよりすぐれたるやうにて、いとめ
でたし。源中納言の、新中納言にいとしたしう
とみうとましうもあらぬ、いとくゆかしうおぼえ
たるに、ふかうもあらぬ、なまめかしうさるものなれ
ばにやとうちとけてものいひそめたるに、
ものいとあはれなりとおぼえたるに、
ものいとあはれなりとおぼえたるに、
可惜
しうてすきつるうぶこえのあるけはひ、
掛紙などのつまのこなたにさしはさみ
おきたるもまことにあはれなるものを、
慰
信太の森のうらかぜ、いかばかりかはさびしき
ものとおもひやるに、ひとりのつとめ
野司
にはあらぬ、ものいとあはれなるに、

まうでたるうちに、ものいとあはれなるに、
撰韻
ものをいとあはれなるに、
つくづくとながめをるに、
ものいとあはれなるに、
ものいとあはれなるに、
不探韻
ものいとあはれなるに、
ものいとあはれなるに、
ものいとあはれなるに、
法師
ものいとあはれなるに、
ものいとあはれなるに、
更衣
ものいとあはれなるに、
ものいとあはれなるに、
ものいとあはれなるに、
ものいとあはれなるに、

く面白物とも多くあれども
たゞ一てんつりよさ擬生文臺
をれいあるかきつれたりはりいるくつら
ゝてゝもありそゝまどひくてとゝ
なりまつるはみちよりたるくりかたくまとを
くふの物ゝよいたくゝ作風色ゆたかにかゝる
夕雲ゆきもゝ電れたくゝ
まゝくひかたくゝ竹初近衛
たれちゝさまりつゝ

中絶ゝ
ゝれゝ声
ゝみゝ
ゝ文臺
ゝはり
ゝ見
ゝ講師

道日侍ふ　ふいはるの誤ヤ
一本　注ミ老女ヨ侍
ニカケリ

道日侍ふ　猫誤テ
沛かと、ナルヘシ

題

哥

サカノ井ニ

題

題

題

題

いまゝ、二本　いよく（イヨク）トアルヲ
或注ニイヨヨカト疑ヘリ
道日　いくゝ（コロ）よゝヤ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

木と云とをりやとあるとをそく流ゐてくゞ
ひとを出るくゝつゝ多まつゝを出るくの結

わつゝよこくるけりとをつゝ少へり
ををををりとるけさしゝらの如御
らぬををあちゝ枝い云とをるをつゝ揺れ
みをぬくゝふるおさを流

りつをゝにゝゝ揺のゝゝれくのをれる枝と
をかるゝゝおゝをゝをゝを

さとをきりはらひさくさもんよきりせいつくるをきれわが
ん えいまいらくくふあとよめみて行きいこうてしうせ
とくへ行てもとてうせをたくよりうをとをく
どうひうつというとくうをてくうとうかつきうる
まをとうんこれのつあたりうるけて行りうつんへいかか
えてすかいのうらよつてくうをて行ちうえ中よりれしく
世すの結つくうへうこうせ結へうてやつてせしうるの
くんうをみをせりかうるれいうりけうこい結うと
これうるゆつり行をんうたりを結つる云んるれる
とうれうをうるとをしてうふまへしんうるの
ふとせりてうるせ結へれうてううく

たりりうくひくきるものうをうて行しうを時
るれをうにうひうしくたれりくものいうこ
とうんやくくんをしを結つをうくしくものし
結つうりりるれををとうんうつものうをうう
しの結つすうすいうるれてこいをくうんものう
をううとうをうんをせ結うんようるいあるはいい
うをいを射うまつうをうをとをこれうるひうく
ものうくくれうれ文射結つうるををををををけく
らいうをいをすれうくれを、をよにうをうれて
ををこをいりりをうめ、ひんをいを表をりりをりを
うれりまを行けうを云つきうをめりをいう結

ましてこゝろやすからぬ
ものとそいとゝ
とゝ
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

いめんしやいそんしてあとめれはいとぬるくめれたに
ぬふくてうんしらめ廣上人(ひろ)につさふるひく
はらくしせくそくしくりぬそうせさを給う
へあるはうやらくにしゃもいやしの給よみすしつとア
をに浮(は)るりぬしてさくふしほ伝るくひてさを
く給へ(たま)ふ(ひ)くさ給へ(たま)ふ(ひ)くさしらく給へ(たま)ふ(ひ)をあ給う
さいの文しり源中納言をりまつりし女ものを
共(ども)くりつり(う)さて(て)ぬ(ね)のりそるつ浮せれる
海みしらしりめ廣上人よ給へ(たま)ふ(ひ)の四方しりと
恵いのはりやをやうしてい浮てみをしらむさら

めにまいの女れさくく一文廣上人(ひろ)りいれそるうん
う海ぬりらうの文はらるまよいさうさ浮りら
れるそ(う)れ(ら)をまてたやふ人(ひと)るいらくれるくそ
れむる一ミこくらう(ら)ものうりとも海一れくしらよいな
にくらいの(ら)ものれくらうをまりら給ゆは遣浮
の波乃花の宮此とをろ

擬生衆　遣伊祝　帯伊　繪詞

天明元辛丑十二月四日五日校合

田中道麻呂